

様式 A 国際交流（国際交流委員会 学生派遣支援 WG）

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	国際交流 International Exchanges		単位 1
	一般・専門の別・ 学習の分野	一般・融合科目・その他	授業形態・学期	その他・通年
	対象学生	総合理工学科 2～5 年	必修・履修・必履修選 択・選択の別	選択
	担当教員・所属系	国際交流委員会 学生派遣支援 WG		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野	英語 / 公民		
	学科学習目標との関 連	本科目は「⑤グローバルな視点と社会性の養成」, 「⑦コミュニケー ション力・プレゼンテーション力の育成」に相当する科目である。		
	技術者教育プログラ ムとの関連	本科目が主体とする学習・教育目標は「(B) 地球的視野に立った人間 性の育成, B-2: 地球上の多様な歴史観・文化・習慣の違いを理解し, 説明できること」である。		
	授業の概要	国際交流活動に計画的に参加し, 交流活動報告書を提出する。		
	学習目的	国際交流を主体的に計画しそれを実施することにより, 地域及び諸外 国等の現状について体験的に考え, さらに今後一人の人間として社会的 に生きるとは何かということについて深く学習することを目的とする。		
	到達目標	1. 国際社会の実情を理解し, 社会性・国際性を身につける。 ⑩. 他国・社会での生活を通して, そこでの経済, 文化, 政治, 社会問題 等を理解し, 国際社会で主体的に生きる個人及び技術者としての姿勢・素 養を培う。		
履修上の注意		この科目を履修しようとする年度の前年度の適切な時期までに担当教員 を決定し, 担当教員に交流の計画書を提出し, 交流を実施することの了 解をとらなければならない。その後, 所定の期日までに交流願等必要書 類を提出しなければならない。また, 所定の期日までに選択科目履修願 いを提出すること。なお, 上記の担当教員決定時期, 教務係への提出時 期等の詳細は掲示等で指示する。		
履修のアドバイス		自ら積極的に取り組む必要がある。		
基礎科目		国語, 人文・社会の科目, 英語・国際コミュニケーション推進プログラムの科目		
関連科目		全系横断演習, キャリアマネジメント, シナジーゼミナール, 英語・国際コミュニケーション推進プログラムの科目		

授業にかかわる情報			
授業の方法		個々に計画書を作成し、それに従って活動する。具体的な交流活動内容は交流機関のプログラムに従う。活動後に報告書を作成，提出する。	
授 業 計 画	開講週		内容〔項目〕（指示事項）
	前 期	1 週	● ガイダンス（研修の目的等に関すること）
		2 週	● ガイダンス（海外安全情報等に関すること）
		3 週	● 書類作成，手続き等の説明
		4 週	● 書類作成，手続き等の説明
		5 週	● 交流活動 1 日目（8 時間を上限として合計 2 2 時間以上）
		6 週	● 交流活動 1 日目
		7 週	● 交流活動 1 日目
		8 週	● 交流活動 1 日目
		9 週	● 交流活動 1 日目
		10 週	● 交流活動 2 日目
		11 週	● 交流活動 2 日目
		12 週	● 交流活動 2 日目
		13 週	● 交流活動 2 日目
		14 週	● 交流活動 2 日目
		15 週	● 交流活動 2 日目
	後 期	16 週	● 交流活動 3 日目
		17 週	● 交流活動 3 日目
		18 週	● 交流活動 3 日目
		19 週	● 交流活動 3 日目
		20 週	● 交流活動 3 日目
		21 週	● 交流活動 4 日目
		22 週	● 交流活動 4 日目
		23 週	● 交流活動 4 日目
		24 週	● 交流活動 4 日目
		25 週	● 交流活動 4 日目
		26 週	● 交流活動 4 日目
		27 週	● 交流報告書の作成
		28 週	● 同上
		29 週	● 同上
		30 週	● 同上
教科書，教材等		教科書：特になし 参考書：特になし	
成績評価方法		報告書等により活動への取り組み姿勢，理解度等を判定し 100 点満点で評価する。合格した者は担当教員に申し出るとともに，学年末試験の最終日までに教務委員会へ単位取得申請を行うこと。	

受講上のアドバイス	交流活動は指定された機関において行うので、該当する機関であるかどうか、よく確認すること。また交流活動に必要な経費は、原則すべて自己負担である。
-----------	---

ルーブリック							
	優	良	可	不可			
評価項目 1	交流活動の社会的背景や重要性を理解し、その詳細を説明できる。	交流活動の社会的背景や重要性を理解し、その基本事項を説明できる。	交流活動の社会的背景や重要性を理解し、その基本事項を概ね説明できる。	交流活動の社会的背景や重要性を理解し、その基本事項を説明できない。			
評価項目 2	交流活動を積極的に展開し、その意義を理解し、詳細に説明できる。	交流活動を積極的に展開し、その意義を理解し、その基本事項を説明できる。	交流活動を積極的に展開し、その意義を理解し、その基本事項を概ね説明できる。	交流活動を積極的に展開し、その意義を理解し、基本事項を説明できない。			
評価項目 3	公共心を持ち、他人や自分の独創性について詳細に表現することができる。	公共心を持ち、他人や自分の独創性について基本的に表現することができる。	公共心を持ち、他人や自分の独創性について概ね表現することができる。	公共心を持ち、他人や自分の独創性について表現することができない。			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	60	0	60
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	40	0	40